



高水地協ニュース

〒383-0025 中野市三好町 1-1-19 Tel.0269-23-0505 Fax.0269-38-0575

連 合 長 野
高水地域協議会

○ 発行責任者 小林 君男

○ 編集責任者 岩本 淳一

第86回北信地区・須高地区メーデーを開催

『働く者の連帯で“ゆとり・豊かさ・公正な社会”を実現し、自由で平和な世界をつくろう』のメインスローガンの下、高水地区に1,600名が参加

メセナホールへ集まった参加者（須高）



高水地協の地区メーデーは、従来通り北信と須高の会場に分かれ、それぞれの地連が主体となって地域労働団体が集結するなか、それぞれ盛大かつ有意義に開催されました。

□ 北信地区メーデー

北信地区メーデーは、「労働者の祭典」と位置づける中で長年にわたり、すべての地域労働団体を対象とした実行委員会形式の地域労働者による統一（合同）メーデーとして開催してきましたが、全労連との運動の違いや参加団体・組合員からの意見・要望を検討した結果、あらためて運動の原点回歸の重要性に立ち返り、連合運動に賛同する団体参加による実行委員会形式の「連合系メーデー」として再スタートしました。また、メーデー会場については、中野市と飯山市において交互に開催しており、今年は飯山市の城址公園をメイン



見事な演奏を披露した「楽農座」の和太鼓



飯山城址公園へ集まった参加者（北信）

挨拶する

本間実行委員長
(地協議長代行)



会場として開催しました。

本会場ではメーデー集会からスタートするため、参加者は午前9時前に飯山市城址公園へ集合し、開会挨拶に引き続いて本間直幸実行委員長（地連会長・しなの富士通労組）の挨拶、ご来賓挨拶、スローガンの確認、メーデー宣言を採択して集会を終え、デモ行進に移りました。

午前10時出発のデモ行進は、市民会館前の道路から仲町交番前を直進、「高橋まゆみ人形館」を左折して「寺町いいやま」を象徴する仏壇・雁木通りを直進し、旧 JR 飯山駅を通過しながら中心市街地の南町・かえで通りの直線道路を行進しシュプレヒコールなど市民アピールを行いました。そして、沿道には大勢の保育園児が手を振って行進隊を見送ってくれました。デモ行進は、約1時間で終了しました。

メイン会場では第2部として、地域の愛好家グループ「楽農座」による和太鼓演奏、単組対抗ジャンケン大会とお楽しみ抽選会、プラカード・デコ車・行進コンクール審査と表彰で1時間20分程度のアトラクションを実施しました。最後に、本間実行委員長の発声で団結ガンパロウを三唱し、予定時間を40分ほど超過で無事に終了することができました。

開催日：2015年5月1日（金）午前9時～
集会場：飯山市・飯山城址公園

参加者：29 団体・単組の 708 名
※うち、北信地連構成単組は 22 単組 650 名の参加



仏壇通りを行進する参加者



新幹線をデザインしたプラカード



特賞の新幹線ペアチケット（目録）

ご来賓紹介



篠原孝衆議院議員の代理



小林東一郎県議会議員



高山恒夫飯山市議会議員



北信労政事務所長の代理



氏勉島小長支店野中金勞



全労済長野支所原田高教補佐

◎篠原衆議院議員の代理は沓掛洋介秘書です。

◎北信労政事務所長の代理は降旗弘明次長です。

◎メッセージ対応は、足立正則飯山市長、池田茂中野市長、竹節義孝山ノ内町長、日臺正博木島平村長、富井俊雄野沢温泉村長、島田茂樹栄村長、北沢俊美参議院議員（民主党長野県連代表）、篠原孝衆議院議員、羽田雄一郎参議院議員、津田弥太郎参議院議員

メーデー宣言

本日、私たちは第 86 回北信地区メーデーを開催した。

東日本大震災からすでに4年が経過しているが、現在も約23万人もの人々が避難生活を余儀なくされ、大変な苦勞を強いられている。

長野県北部地震や昨年の南木曽町土石流災害、御嶽山の噴火、神城断層地震など多くの自然災害を含め、私たちはこれからも被災地の復興と再生に向けて力を尽くすとともに、震災の教訓を決して風化させることなく、被災地との絆を深め、安定的な雇用と安心な生活の確保に取り組んでいく。

一方、我が国の経済・社会は、格差の拡大、大幅な財政赤字、社会保障制度改革の遅れなど、依然として深刻な状況にある。私たちは2015 春季生活闘争を最後まで闘い抜き、「底上げ・底支え」「格差是正」の実現を果たし、「デフレからの脱却」と「経済の好循環の実現」をはかっていく。

そして、労働者保護ルール改悪阻止と全世代支援型の社会保障制度の確立などを求め、本日のメーデー集会で以下の政府要求を確認し、その実現のための行動をスタートさせる。

- 一、労働者派遣法の改悪をしないこと。
- 一、実効ある長時間労働抑止策を導入すること。労働時間規制の緩和につながる労働基準法の改悪をしないこと。
- 一、公的年金制度の年金積立金の運用に当たって、拠出者である労使の意思が確実に反映できるガバナンス体制を構

築すること。

労働者を使い捨てにする“ブラック企業”問題が広がる時代にあって、労働組合の必要性は益々高まっている。働く者の力をより大きくしていくためにも、あらゆる職場で労働組合をつくり、一人でも多くの仲間を増やそう。

本年は戦後 70 年の節目である。先の大戦を経験された方々と同じ時代に生きる者として、私たちは戦争を二度と繰り返してはならないという平和の誓いを、次世代へしっかりと継承していく責務がある。単なる過去の歴史として記憶の彼方に追いやるのではなく、他人事ではなく自分の事として考え、平和の誓いを全ての仲間と共有し前進していこう。

メーデーは労働者の国際連帯の日である。私たちは、国際労働組合総連合（ITUC）や諸外国の労働組合の仲間と連携し、自由で民主的な労働運動と、すべての働く者の幸福を実現するための取り組みを強化する。

平和を守り雇用を立て直す、みんなの安心のため、さらなる一歩を踏み出そう！ 志を同じくする仲間との連携により、「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現」に邁進し、「働くことを軸とする安心社会」への扉を切り拓くことを、今ここに宣言する。

2015年5月1日

第 86 回北信地区メーデー

□ 須高地区メーデー

例年通り午前 8 時 30 分に、芝宮前と市役所前からそれぞれの梯団がデモ行進に出発しました。

先ず、芝宮（墨坂神社）コースのデモ行進は、ほぼ直線の立町市役所通りで、一方の市役所コースは金井原通りから臥竜公園を左手に見ながらの公園通りを行進し、会場の須坂市

文化会館（メセナホール）をめざしました。

それぞれが行進隊が 1 時間ほどで会場へ到着し、ホールの椅子に着席後、参加単組から選抜・編成された 15 名ほどのコーラス隊が登壇し高教組のエレクトーンの演奏に合わせてメーデー歌を合唱、午前 10 時から小林君男実行委員長（地協議長）挨拶でメーデー集会が始まり、参加労組・団体の 1

分間アピール（日常活動の発表等）、メーデー宣言の採択に続き、最後に小林実行委員長の発声で団結ガンバロウを三唱して集会を閉じ、その後プラカード表彰とお楽しみ抽選会を行い、成功裏に須高地区メーデーを終了しました。

なお、デコレーションカーの提供された単組には、実行委員会より一律の助成金支給で対応しました。

開催日：2014年5月1日（金）

集会場：須坂市文化会館（メセナホール）

参加者：26団体・単組の900名

※うち、須高地連構成組織は12労組で666名の参加

挨拶する

小林君男実行委員長
（地協議長）



市職のデコ車を先頭にデモ行進



プラカードを担いで行進するデモ隊



デモ行進を終えて会場へ入る参加者



お馴染みの農団労須高労組のデコ車



長野電鉄労組が提供したデコ車



須高地区労連のデコ車

須高地区メーデーは、独自の大会スローガンで市民アピールしメーデー宣言を採択する。

働く者の団結で、生活と権利、平和と民主主義を守ろう！

1. 安倍「暴走政治にストップ、戦争をする国づくりを許さない！
2. 労働法制の改悪反対、安定した雇用の確保と働くルールの確立をはかれ！
3. 戦後・被爆70年の歴史を踏まえ、憲法改悪阻止、原発ゼロ、核兵器の廃絶！
4. 消費税増税中止、貧困・格差の解消と地域の経済を守れ！

メーデー宣言

安倍内閣のすすめる暴走政治は、①集団的自衛権の行使容認による「海外で戦争する国」へと大転換を図り、戦争法制づくりと日米防衛ガイドラインの改定、秘密保護法の施行、武器輸出と兵器産業強化などを推進。②福島原発の事故収拾も被災者への十分な支援もしないまま、原発の再稼働と海外輸出の早期実現。③大企業と富裕層を優遇し、消費税の増税や社会保障の切り捨て、非正規・派遣労働者の拡大、ＴＰＰ問題など、庶民や労働者に過重な負担と犠牲を強いるアベノミクスによって、貧困と格差がさらに拡大。④沖縄・辺野古新基地建設に明確な反対の意思を示した沖縄県民の民意を無視し、強権的に建設を推進。⑤教育・教科書の国家統制を強め、ヘイトスピーチを放置し、侵略戦争と加害の歴史認識のねつ造・隠ぺいを図るなどの5点が特徴としてあげられ、これらはいずれも、平和といのち、人権を保障する憲法の精神と原則を踏みにじるものとなっています。

この暴走にストップをかけるために、広範な世論とそれを支える人びとの声と、行動を強く大きくしなければなりません。実際、9条改憲や集団的自衛権行使、原発再稼働、消費税増税、ＴＰＰ、辺野古新基地建設やオスプレイの配備などには、世論の多くが力を合わせて反対し続けてきています。

私たちは本日、これらの声を行動として結集しするため、統一を実現して12回目となる第86回メーデー須高地区大会を開催し、世界中の労働者とともに統一と団結の行動として、暴走政治を一刻も早く止めさせ、国民のための政治の実現のアピールを須高地域に轟かせました。

私たちの力で農業や商店の人、未組織の人など全ての働く者に元気をみなぎらせ、須高地域の全ての家庭や職場で笑顔を輝かせていくことを高らかに宣言します。

第86回メーデー万歳！

2015年5月1日

第86回メーデー須高地区大会

ご来賓の紹介は、紙面の都合により写真の掲載を省略し、公職名と氏名を紹介します。

〔敬称略〕

ご来賓	三木正夫須坂市長、宮坂成一・岩田修二・竹内勉・宮本勇雄・久保田克彦（各須坂市議会議員）、中村雅代・小淵晃・小林正子（各小布施町議会議員）、山崎秀治・畔上孝一（各高山村議会議員）、竹内宏美社民党須高総支部幹事長、白鳥博昭（北信労政事務所長の代理として）、相澤裕治労金須坂支店長、塚田秀樹全労済長野支所長
メッセージ	北沢俊美参議院議員（民主党長野県連代表）、篠原孝衆議院議員、羽田雄一郎参議院議員、津田弥太郎参議院議員

『STOP THE 格差社会！ 暮らしの底上げ実現』キャンペーンの街宣行動



根橋事務局長から引き継ぐ

菜の花畑を駆け抜ける街宣車

5月7日より、『STOP THE 格差社会！ 暮らしの底上げ実現』キャンペーン第3弾の全国統一行動が実施されており、連合長野では、5月7日早朝のJR長野駅前での中山会長による車上アピールでスタートし、市中街宣を行いながら高水地協に引き継がれ、5月29日までの約1ヵ月間にわたる地協キャラバン街宣活動が実施されています。

高水地協は、まず中野市街地を街宣したのち、この春東京・金沢間の北陸新幹線開通で新駅がオープンした飯山市へ向い、全国に豪雪地帯として知られるこの地域は、一面に新緑と黄色の菜の花が咲き誇る絶好の風景が広がっています。

7～8日の2日間が担当日となり、1日目は山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村の北信濃を街宣し、2日目は須坂市、小布施町、高山村の須高地域を街宣し、長野市街地担当者にバトンタッチしました。

本紙では、キャンペーンの概要について少し説明します。

~~~~~

政府が提唱する「世界で一番企業が活躍しやすい国」——実は働く人の犠牲の上に成り立つビジョンだということをご存じですか？ 残業代ゼロ、生涯低賃金の派遣社員……。私たちや将来世代にどんな影響を与えるのか？ 働く人の暮らしを危

うくする労働者保護ルール改悪の食い止めるのは“今”です！

### 柱1）労働者保護ルール改悪を阻止する取り組み

政府や経済界が画策する労働者保護ルールの見直し。ホワイトカラー・エグゼンプション、労働者派遣法の改正、解雇の金銭解決、外国人労働者の低賃金受け入れ……。私たちや将来世代にまで悪影響を及ぼしかねない諸々の改悪。許して良いのでしょうか？

### 柱2）「年金積立金はだれのもの？」の取り組み

私たちの年金給付の貴重な財源である年金積立金の運用の目的は、法律で「専ら被保険者の利益のために」と規定されています。しかし、現在、経済成長の名の下、私たちの意思確認もないまま、一方的にリスク性資産割合を高めた運用への見直しが進められています。損失が出た場合は結局、私たち被保険者・受給者が被害を被ることになります。年金積立金の運用のあり方について、一緒に考えてみませんか？

### 柱3）将来不安を払拭し、暮らしの底上げをはかる取り組み

今、連合調べで88%の人が将来の暮らしに不安を感じています。明日からの暮らしをどう繋いでいけば良いのか。日本の未来はどうなってしまうのか。私たちの暮らしを取り巻く低賃金や過酷な労働環境……。このままで良いのでしょうか？

### 柱4）社会に運動の輪を広げ、仲間を増やす取り組み

職場の1人としても、社会を構成する1人としても、悩みや課題を1人で解決することは簡単ではありません。労働組合は仲間の力を結集し、より良い職場や社会を実現することができる組織です。1人で悩まずに仲間とともに行動してみませんか？

## 加盟単組紹介

### ◇ 農団労須高農協労働組合 ◇



わたしたち農団労須高農協労働組合はJA須高を母体とする組合です。

JA須高は平成元年に須高地域5JAの合併により誕生し

現在に至っています。須高地域は、千曲川の東岸に広がる豊かな土地で、日本百名山のひとつ四阿山を源流とする鮎川や、百々川、松川などによって形成された扇状地と千曲川によって造られた沖積地によって構成されています。全体的に西に向かってなだらかな傾斜を持ちながら広がる複数の扇状地は適度に水捌けがよく、千曲川が上流から運んできた肥沃な土壌との絶妙なバランスが農作物の栽培に最適な環境であり、比較的降水量が少なく、昼と夜の温度差が大きい北信濃特有の気候も、おいしい農産物が育つための絶好の条件で全国でも有数のおいしい果物の産地として名を馳せるようになりました。

しかしながら近年、農業やJAを取り巻く様々な環境が厳しさを増すなか、我々労働組合は組合員数115名、執行部7名で学習会、委員会等を開催して、組合員の声を聴きながら労働条件の改善や職場改善を目指しています。これからも農団労須高農協労働組合をよろしくお願いいたします。

（執筆：副執行委員長 二ノ宮光次郎）

以上